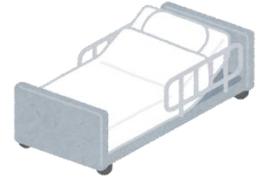


色彩ケア

介護において色彩を積極的に使い、日常に明るさや楽しさ、安らぎを提供することを目的とした医療ケア

施設を利用されている高齢の方の特徴

- ・壁やベッドなど色が変わらない環境に囲まれている
- ・色を見分ける力の低下により料理に使われている食材の把握が難しい
- ・認知機能の低下により食べ物と器の境目がわかりにくい



食と色の関わりについて

- ① 五感のうち 83%は視覚が情報判断をしている＝「見た目」で食欲を増すことができる
- ② 食材の色のバランスで栄養バランスの良さを伝えることができる
- ③ 器の色や質感で温度・食感を表すことができる（ずっしり感、清涼感など）
- ④ 色彩で四季の感覚を届けることができる



わかたけ南 栄養部での取り組み

色の鮮やかさ・バランス モノトーンを活用



白と黒の食器で
食材の鮮やかさを強調

器で温度や食感を表す



行事に合わせた食器 敷紙・ポスター



- ・日常に明るさや楽しさ、安らぎを提供できる
- ・色を介して物や思い出を想起することで、その人らしい支援へつながる
- ・色がコミュニケーションツールになる

= QOL の向上